



12 2024

発行所 大阪府中央区玉造2-24-22 カトリック大阪高松大司教区 広報委員会 郵便番号 540-0004 TEL (06) 6941-9700 (代表) TEL (06) 6946-3223 (直通) FAX (06) 6946-3224 (直通) E-mail: jho@osaka.catholic.jp 編集 広報委員会 発行人 前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」があります。ご希望の場合は下記まで申込み「点訳版(点字本)」 教区報 ☎06-6946-3223(直通) ☎06-6946-3224(直通) 「音訳(テープ・デジ)」 山口さん ☎0798-34-4228

☆ 典礼研修会 ☆ クリスマス関連行事・ミサ時間 ☆ 司牧者からの一冊 ☆ 紀泉ブロック・姫路地区聖信式 広報委員会へのEメールアドレス=kyokuhno@osk.catholic.jp

☆ 納骨者・死者祈念ミサ ☆ シノドスの教会に向けて ☆ 2024年社会福祉花部門の振り返り ☆ カテキズムの学び ☆ 7画 ☆ 6画 ☆ 4画

『教区報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

聖年の待降節やシノダリティ



サンピエトロ大聖堂の聖なる扉



聖年のテーマ 希望の巡礼者

来年2025年は通常聖年です。25年に1回の聖年が今年12月24日から始まります。わたしたちはこの恵みを、福音宣教につなげることが出来る素晴らしい機会にしたいものです。

今回の聖年は、「希望の巡礼者」というテーマです。聖年の祈りの中の最後に、「聖年の恵みによって、希望の巡礼者である私たちのうちに、天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、あがない主の喜びと平和が全世界に行き渡りますように。永遠にほめたたえられる神であるあなたに、栄光と賛美が世々とこしえにありますように。アーメン」とあります。教会が、そして人類が「ともに神の

国に向かつて歩む」希望を呼び覚まします。できるだけ大阪高松教区の教会施設を活用して「希望の巡礼者」を奨励することを考えましょう(全教区で巡礼地が決まりつつあります)。未来への福音宣教に大いに寄与することでしょう。

(大司教 前田万葉)

なるほど聖年Q&A

Q 聖年って何？

A 聖年とは、バチカンで25年に一度開催される特別な年です。聖年は平和と免償を祈る一年であり、教皇はカトリック信者に聖年の大赦と呼ばれる特別免償を与えます。今回の聖年は、2024年12月24日にバチカンのサンピエトロ大聖堂の聖なる扉が開かれて開幕し、2026年1月6日の主の公現の祭日に同扉が閉じられ閉幕します。

Q 免償とは？

A 免償とは、罪科としてはすでに赦免された罪に対する有限の罰の神の前におけるゆるしです。キリスト

信者はふさわしい心構えを有し、一定の条件を果たすとき、教会の助けによってこれを獲得します。免償は、罪のために負わされる有限の罰からの解放が部分的であるか全体的であるかによって、部分免償および全免償とに分けられます。Q 聖年の特別免償を受けるためにはどうすればいい？ A フランシスコ教皇は、特別免償を受けるために、三つのことを勧めています。

*QRコードを読み取ってください



INTERNATIONAL DAY 2024



フィナーレで肩を組んで歌う前田大司教と村田神父

中から参加 露した。途 踊や各国の ループが音 ジでは、20 を超えるグ を提供する 車場を囲 み、ステー 各国の料理 などを提供 する50ほど の出店が駐 午後5時交 びかけた。 流会では、 各国の料理 などを提供 する50ほど の出店が駐 午後5時交 びかけた。 流会では、 各国の料理 などを提供 する50ほど の出店が駐 午後5時交 びかけた。

INTERNATIONAL DAY 実行委員会

日本二十六聖人 聖画の修復と里帰りのために 寄附のお願い



1931年にローマ教皇ピオ十一世に献納された、岡山聖虚作の「日本二十六聖人」聖画は、献納されてから93年が経過し、劣化が進んでいます。再び日本に戻して、修復と里帰り展示を目指しています。ご協力をお願いします。

一般社団法人26聖人聖画等プロジェクト 代表理事 前田万葉

振込先

各口座名『一般社団法人 26聖人聖画等プロジェクト』 募金振込先① 三菱UFJ銀行 長崎支店 普通預金 0866639 募金振込先② 十八親和銀行 浦上支店 普通預金 5013859

【お詫び】

※先日、小教区にお配りしたリーフレットに電話番号の間違いが判明しました。正しい電話番号は、095-807-5646です。後日、訂正したリーフレットを小教区に配布しますが、先にこの場を借りて訂正いたします。

(一社)26聖人聖画等プロジェクト

10月20日(日)、大阪高松カテドラル聖マリア大聖堂において「INTERNATIONAL DAY」が開催された。午前中は多言語ミサがおこなわれ、午後はカテドラルの駐車場周辺で、エキシビションかつ国籍を越えた人びとの交流会が開かれた。ミサは、立ち見の人たちが出来るほど多くの人たちが参加した。酒井俊弘補佐司教は説教で、「宣教は司祭 だけではなく、一人ひとりが職場や地域で、いま自分にできることを精一杯示すこと」と語り、「今日はさまざまな言葉でミサをともに捧げよう」と呼びかけた。

今回は、大阪星光学院、ヴェリタス城星学園、平安女学院大学などから多くの学生ボランティアが参加し、ごみ処理やステージの裏方などを手伝ってくれた。終了後に感想を聞くと「とても楽しかった」、「海外出身の人たちとの交流は貴重な体験だった」など、肯定的な感想を話してくれた。いつもINTERNATIONAL DAYは多様な人びとの力で支えられている。心から感謝したい。



受洗者が他の人びとを祝福する使命を再認識、祈りと共にその役割を学ぶ。

④ 葬儀：故人との生きた交わりを表すと同時に、参列者にキリスト教的死の神秘を明らかにし、永遠のいのちを配から解放すること。

⑤ 信心業：聖遺物の崇敬、聖所訪問、巡礼、十字架の道行、ロザリオ、メダイ等の信心業は、秘跡生活に代わるものではない。

⑥ 祝福（人、食事、物、場所）：すべて神への賛美であり、その賜物をいただくための祈りであり、聖職者以外でも信徒の資格者も授けることができる。

⑦ 奉獻：人に関するものには、修道院長、修道誓願式、教会の奉仕者の祝福などがあり、物に関しては、教会堂や祭壇の奉獻・祝福、聖油、祭器具や祭服、鐘などの祝福がある。

⑧ 秘魔式：苦しみの原因が病気ではなく、悪魔の働きであることを確認した時に、教会がイエス・キリストのみ名により、人や物を悪魔の支配から解放すること。

大阪高松大司教区 典礼研修会 准秘跡と信心業

10月27日(日) 14時から、サクラファミリア(大阪梅田教会) 聖堂において、酒井俊弘補佐司教を講師に迎え、標記のテーマで教区典礼研修会を開催した。参加者は、約110人。

⑨ 信心業：聖遺物の崇敬、聖所訪問、巡礼、十字架の道行、ロザリオ、メダイ等の信心業は、秘跡生活に代わるものではない。

これらの准秘跡は常に祈りを伴うことや、すべての受洗者は共通祭司職にあり、他の人びとを祝福するよう召されていることを学んだ。「質問コーナー」では、さまざまな質問に答えていただき、「私たちは洗礼によって、他の人びとを祝福する使命をいただいたことを再認識し、救いの恵みを証ししていくことができ、すように」という祈りをもって終了した。

大阪教区の「新生の歩み」に生命を吹き込み育てたい、また「ミサが心のごちそうになるように」という思いで、教区の典礼関係の窓口として約25年活動してきました。委員会は司祭・修道者・信徒それぞれ若干名で構成されており、昨年10月の大阪高松大司教区設立以降は、旧高松教区の典礼担当者とともに活動しています。毎年10月最終の日曜日には「教区典礼研修会」を実施し、YouTube配信も行っています。研修会には、どなたでも参加していただけます。HPも活用ください。

大阪高松大司教区典礼委員会



2024年 クリスマス・新年(神の母聖マリア) ミサ時間一部

Table listing church services for December 2024. Columns include church names (e.g., 垂水教会, 芦屋教会), dates, and times. Services are listed in Japanese and English, with some including special events like carols or performances.

クリスマス行事

Christmas Events section containing details for various activities: Christmas Party (12/25), Christmas Carol (12/24), Christmas Music Gathering (12/22), Christmas Carol in Minato (12/16), Christmas Charity Concert (12/7), Christmas Carol (12/22), Christmas Carol (12/22), Christmas Carol (12/22), Christmas Carol (12/22), Christmas Carol (12/22).

この本は、聖書の言葉を幼稚園の子どもたちに、どのように伝えるか試行錯誤していたときに職員から紹介された本でした。聖心のシスターが著者で、聖書の言葉の紹介だけでなく、子どもにもあり、『今日やってみる』と題され、この箇所の目標が記述され、わかりやすい言葉とたとえで説明がなされています。聖書は『見えない神さまが人間にわかるように、いろんな出来事を通して』『「神さまのこころ」を伝えてくれている本』と著



『こども聖書』(聖心女子大学鈴木秀子著/いりづきまゆ/イラスト、すばる社、税込1,650円)

古川健一神父からこの一冊



【プロフィール】
古川健一神父(オブレート会)
 1973年10月5日生まれ(51歳)

2005年 終生誓願 オブレート会
 2006年 3月 南山大学院人間文化研究科修士 課程修了
 2007年 2月17日 大阪教区伊丹教会 司祭叙階
 2007年 福岡教区 古賀教会協力
 2011年 福岡教区 吉塚教会 飯塚聖母幼稚園 園長代理
 2014年 暁の星幼稚園 園長
 2018年 古賀教会協力
 2021年 中村教会担当 高知聖母幼稚園 園長



次回は下瀬智久神父(レデンプトール会)です。

者が書かれておられます。しかしながら、聖書は分厚く、読むのに数カ月、数年かかる上、文体もさまざまです。理解するには難解な部分も多いのです。もちろん、子どもにも、聖書本文を読んで伝える事も、大切かもしれません。理解できない難しい聖書で終わるより、この本のよう

紀泉ブロック堅信式

私のためではなく 誰かのために



10月13日、酒井俊弘補佐司教、イポリト・ヴィダ神父、最頼巖流神父の司式により泉南教会で堅信式が行われ、6人の受堅者が聖霊の恵みを受けた。

泉南教会で行われた堅信式には、紀泉ブロックやブラジルからの参加者を含む70人が集まった。6人の受堅者が聖霊を受けて信仰を新たに深めた。酒井司教は説教で、私たちが持つ「時間」という財産を他者のために使う重要性を強調した。物質的な富を持つていないかもしれないが、時間こそが私たちの大きな財産であり、それを人びとのために捧げることが神の求めることだと伝えた。

ブラジルの受堅者が手作りのケーキや料理を提供し、各国の歌やダンスが披露されるなど、和やかで楽しい雰囲気にも包まれた。受堅者の一人であるアンヘリカ・クララ河合紗良さんは幼児洗礼とは違い、自分の意志で堅信の勉強をすることができて、多くの方々の支えに感謝して、信仰を深める喜びを感じていました。

泉南教会紹介

- ☎ 072-14821-3668
- ◆ 住所 大阪府泉南市榊9-2-8
- ◆ 守護 聖ハウロ三木
- ◆ 設立年月日 1974年7月14日
- ◆ 信徒数 212人
- ◆ 特色



◆ おすすめの店
 コロナ禍以前はたくさん飲食店が近くにありましたが、今はほとんどのお店が閉店になっていきます。近くのりんくうタウンまで足を延ばせば、レジャー施設 SENAN LONG PARK(泉南ロングパーク)は、飲食店も充実しています。

姫路地区堅信式
 信仰の成長と神の助け



10月6日、姫路教会で行われた堅信式では、酒井俊弘補佐司教と多くの神父たちが共同で式を執り行い、20人の受堅者が神の恵みを受け信仰の成長を誓った。ミサは英語と日本語が交わる国際色豊かな内容となった。

受堅者の中には、網干教会1人、仁豊野教会2人、姫路教会11人、加古川教会6人が含まれている。堅信式は英語ミサの中で執り行われ、その部分は日本語で行われた。参列者の半数は英語コミュニケーションのメンバーで、受堅者の多くもベトナム出身の信徒であり、国際色豊かなミサとなった。酒井司教は、堅信式の重要性について語り、「堅信を受けることは信者として大人になることを意味します。大人は自分だけでなく、他者を思いやること、求められます」と強調。また、「神の助けを求めて、祈り続けることが大切です」と呼びかけた。式後には祝賀会が行われ、受堅者や参列者たちは

姫路教会紹介

- ☎ 079-1222-0043
- ◆ 住所 姫路市本町68
- ◆ 守護 聖フランシスコサビエル
- ◆ 設立年月日 1949年1月2日
- ◆ 信徒数 1167人
- ◆ ホームページ
- ◆ 特色

その喜びを分かち合った。加古川教会の受堅者、田中翔真さんと田中桐真さんは、「酒井司教様のお話しを胸に、これからも神様の恵みの中で成長していきたい」と感謝の気持ちを述べた。



◆ おすすめの店
 姫路駅ホームの『まねきの駅そば』は、和風だしの中華麺が楽しめる人気店。姫路駅前にあるFESTA(フェスタ)の姫路のれん街は屋台風のお店で食べることができます。



故人を偲び、永遠の安息を願う

納骨者・死者祈念ミサ

11月4日(祝・月)大阪と高松の2カ所で納骨者及び死者祈念ミサが行われた。

桜町聖堂でのミサと地下納骨堂での祈りへの参加者が20数人、日程の事情があり墓参は2回に分けて行われました。墓地は、教会から車で10分足らずの里山にあります。市営墓地内に「カトリック信者墓地(昭和11年6月建之)」という塔が建ち、カトリックの墓地が2箇所設けられています。



大阪高松聖マリア大聖堂では約500人が参列しました。カトリック教会では、11月は「死者の月」として、亡くなった方々を思い起こし、祈る月です。

酒井俊弘補佐司教は説教で「ミサが神様への祈りならば、それは対話となり、ミサや聖歌をもって言葉を投げかけると、神様は聖書朗読と説教を通して語りかけてくださいます。言葉をかけることはなくても、共に寄り添い涙を流してくださる」と語られました。故人を偲び、永遠の安息を願い、何よりも残された私たちが互いに寄り添いながら生きていくことができるようにささげられました。



新福音化委員会よこし シノドス第二会期終了、シノドスの教会に向けて

10月2日〜27日まで、シノドス第16回通常総会の第二会期が開催され、日本からは、司教協議会から菊地功大司教、議長代理として西村桃子さん、顧問としてシスター弘田しずえさんが参加した。

第二会期では、20の検討課題で「霊における会話」が行われました。それは、教皇が提起した10の研究部会で検討がなされ、

2025年6月をめどに結論が出される予定です。第二会期の一番の目的は、「宣教するシノドスの教会となるには」です。教会は何に

て聖霊の導きを識別することにありました。このたびのシノドスは、ローマでの会議で終わるのではなく、これから先の教会の歩むべき道のりを見極め、それに沿いながら皆で歩み続けるために行われました。すなわち、これで終了するのではなく、これからが本番だとされています。

「シノドス的」な方法論である「霊における会話」がこれからさらに定着発展することが望まれます。シノドスの歩みは回心と改革の道筋となります。『討議要綱』では、教会全体が宣教に向かうためのシノドスであることが強調され、教会は、「人びとにさらに近い教会」「少なくとも

官僚的でない教会」「神の家であり家族である教会」「洗礼を受けたすべての人びとが共同責任を負い、それぞれの任務と役割を担う教会」「信仰の共同体にあるいのちに参加できるような教会」であることの大切さに触れています。今回のシノドスでは、通常1年後に発表されてきた『使徒的勧告』を出さないと教皇は語っています。それはシノドス後の「まとめ文書」が内容豊かで、閉会後すみやかに世界に伝えられるからだとのこと。まとめ文書では、特に女性の働き的重要性が強調されています。教会の活動はすべて「宣教」に向かうとされており、司教、司祭、修道者、信徒

も宣教に向かう存在として位置づけられています。宣教へのプロセスとして、「状況を見極め、責任を負い、それぞれの任務と役割を担う教会」「信仰の共同体にあるいのちに参加できるような教会」の大切さに言及しています。討議要綱では、自らの任務について共同体への説明責任は大事であり、「教会における、また教会による透明性と説明責任への要求は、金銭的スキャンダル、特に未成年者や弱い立場の人に対する性的虐待やその他の虐待によって信頼性が失われた結果、必要となっています。透明性と説明責任の欠如は、聖職者主義を助長してしまうのです」(75番)とまで指摘しています。

シノドスの教会づくりへと成長し、宣教に向かう教会へと進んでいくことを確認した第二会期であったということ。会議が終了し、これからは本格的なシノドスの教会の建設に向かう歩みが長期にわたって続けられていきます。よろしくお祈りします。なお、次回以降で第二会期の内容を改めて解説します。(シノドス担当 吉村信夫)

祝 100歳おめでとうございます！ 池田義高神父さま

池田神父さまは、1924年4月25日生まれで今年百歳となられ、先日そのお祝いを国からも受けられました。番町教会で長く司牧され、幼稚園やボーイスカウトなどでも貢献されました。数年前から体調をくずされ、今は坂出のサ高住*「めぐみ」で生活されています。今年のお正月明けに、再び体調をくずされ心配しましたが、奇跡的な回復をみせて、いまの体調は落ち着いておられます。

敬老の日にあわせていろいろな方面からお祝いを受けられ、その品を届けに行ってきました。神父さまにお会いするのは、4月の百歳を祝うお誕生会と夏前の衣替えの時期以来でしたので、「体調はいかが？」と思っていましたが、実際にお会いすると心配ご無用という感じでした。その折に、お部屋の片付けをしながら掃除をしている私たちをやさしいまなざしで見守り、ニコやかにおやつなどを一緒にいただき、神父さまの優しさにふれて、帰途につきました。



以前の神父さまは、近寄りたがたい感じもありましたが、今の神父さまは物静かで落ち着いた優しい態度で、いつも私たちを受け入れてくださいます。そんな神父さまが、もっともっと長く私たちの間に居てくださる事を心から望んでいます。(番町教会 マルタの会)

*サービス付き高齢者向け住宅



番町教会の紹介
◆守護 ロザリオの聖母
〒760-0017
香川県高松市番町2-4-31
◆087-823-0430
◆設立年 1921年

◆教会の特色と特徴

香川県で初めて布教活動を開始した拠点です。1993年にケルン社製のパイプオルガンを導入し、ミサにおいて皆で大きな声で聖歌を歌っています。

キャッチコピー「歌う香川の初穂教会」

◆おすすめ

教会から徒歩15分にある高松駅周辺は再開発(サンポート高松)により、さまざまな商業施設(さぬきうどん店やお土産店)があります。



2025 年を「希望」の年にするために～社会福音化部門のふりかえり



大阪高松教区の社会福音化部門では、障がい者委員会、正義と平和委員会、カリタスジャパン、難民移住移動者委員会、部落差別人権委員会、外国語司牧、船員司牧についての各担当司祭と、部門全体の事務局の役割をもった社会活動センター・シナピスを中心に、教区全体を巻き込んでの社会の福音化を担っています。担当司祭やスタッフの方々に、この1年間をふりかえっていただきました。

希望のしるし 一聖年を迎えるにあたってー 社会活動センター・シナピス センター長 松浦 謙 神父

今年の12月24日より2026年1月6日まで、私たちは「希望の巡礼者」というテーマのもとに聖年を過ごします。

3年半に及んだコロナ禍は収束しましたが、今も続くウクライナやガザでの戦争・世界各地の紛争・核兵器の脅威・気候変動による自然災害の増加などの報道を聞くたびに将来への不安が募ります。そのような中で祝福される聖年は、きっと私たちを励まし、前進させる機会となるでしょう。悪いことが起きて、悲観的にならず前向きにとらえることは大切ですが、いわゆる「希望的観測」は必ずしも良いとはされません。

なぜなら、自分自身の都合の良い可能性だけを信じて、正しい根拠や事実に基づかないで判断してしまい、状況をさらに悪化させてしまうことがあるからです。私たちキリスト者の希望はそれとは異なり、確かな証拠、確たる理由があります。

教皇フランシスコは聖年の大勅書『希望は欺かない』の中で、次のパウロの言葉を引用しています。「わたしたちは神の栄光にあずかる希望を誇りにしています…希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたち

の心に注がれているからです」(ロマ5:2, 5:5)

キリスト者の希望は、裏切られることはありません。失望に終わることは決してないのです。なぜなら、いかなるものも「わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛からわたしたちを引き離すことはできない」からです。(ロマ8:39)

私たちがこの希望を失わないように、目に見えるしるしも神様は与えてくださっています。いのちを守る取り組み、若い世代の活躍、国籍を越えた交わり、障がい者への福音的配慮、病者・高齢者へのケア、難民支援、貧しい人々や差別されている人々との連帯などです。限られた紙面ですが、この1年の社会福音化部門の活動の一端を紹介します。

この聖年が私たちにとって新たな一歩を踏み出す恵みの時となるように願います。



障がい者委員会より 大阪高松教区 障がい者委員会

●「合理的配慮」と教会の「シノダリティ」

9月23日の「病者・障がい者と共に歩むミサ」で前田大司教が触れられたように、「障害者差別解消法」が改正され、今年4月に障がい者に「合理的配慮」を提供することは民間の事業者の義務となりました。今の教会の基本姿勢でもある「シノダリティ＝共に歩む」姿勢の理解を深め、実践するために与えられた機会であり、神から与えられた各人の賜物を生かしあう共同体を実現するチャンスです。

障がい者委員会は、関連グループとも連携しながら、教区の公式行事だけでなく、小教区での「合理的配慮」をサポートする方策を模索中です。

- *「シナピスニュース」では8月号から合理的配慮の解説記事を連載中です。
- *合理的配慮の解説は、内閣府のWebサイト(QRコード参照)でごらんください。



- 教会ハンドブックへ障がい者への配慮・設備の表示掲載
教区の広報委員会が「チャーチ・ナビ」(小教区案内のハンドブッ

ク)を作成中ですが、障がい者にとってどれくらい使いやすい設備があるか、わかりやすく掲載される予定です。高齢者や病者、誰にとっても使いやすい場作りにはみんなの協力が必要です。

●祈りの時を共にするために スマホやIT 機器の活用

旧大阪教区と旧高松教区が一つになり、公式行事などで遠隔地や身体的理由から現地参加できない人でも一方向のYouTube視聴だけでなく、Zoomなどを用いて双方向のコミュニケーションできる環境が求められます。コロナ禍でコミュニケーションの大切さを再認識し、様々な工夫をした経験・ノウハウをさらに活かし、小教区のミサ・祈りや分かち合いなどでも、一堂に会することができない人にも、時を共有できる環境を提供する努力を続けたいと考えています。

*もう一つの協力関係:「合理的配慮」と共に、自分でIT機器やスマホなどを使わない人に、家族・知人や小教区、施設の中の機器を使う人が協力提供できる環境を提供することも課題です。

- 上記のような障がい者関係のことでのお問い合わせは、障がい者委員会 e-mail:dis@ostk.catholic.jp へどうぞ。

シナピスでは、毎月「シナピスニュース」を発行しています。

シナピスの活動は、皆様のご寄付やご支援で運営しています。活動の内容はぜひ「シナピスニュース」をごらんください。



「シナピスニュース」(無料)
ご希望の方は下記まで。

TEL:06-6942-1764
FAX:06-6920-2203
Mail:sinapis@ostk.catholic.jp
*ホームページ
sinapis.osaka.catholic.jp/



↓ キ リ ト リ 線 (下記の破線で切り取ってご使用ください。) ↓

02 大阪		払込取扱票				通常払込料金 加入者負担	
口座番号		百 十 万 千 百 十 番		金額		千 百 十 万 千 百 十 円	
0 0 9 6 0 - 7		6 1 4 1 9		* 〇 〇 〇 〇 〇 〇		〇 〇 〇 〇 〇 〇	
加入者名		カトリック大阪高松大司教区 シナピス		料金		特殊取扱	
ご依頼人・通信欄		おところ・おなまえ		寄付の指定をお願いします(☑を入れて下さい)		2412 J	
				<input type="checkbox"/> 難民移住者支援 <input type="checkbox"/> こども基金 <input type="checkbox"/> 活動運営費 <input type="checkbox"/> 指定なし			
		該当する方は☑を付けて下さい。 <input type="checkbox"/> 匿名希望 <input type="checkbox"/> 領収証不要		おところ・おなまえ			
		〒		受付局日附印		様	
		(電話番号)					

払込金受領証			
口座番号	0 0 9 6 0 - 7		
加入者名	カトリック大阪高松大司教区 シナピス		
金額	* 〇 〇 〇 〇 〇 〇		
ご依頼人	おなまえ		
料金	受付局日附印		
特殊取扱			

裏面の注意事項をお読みください。(郵政事業庁)(私製承認第30228号)
これより下部には何も記入しないでください。

切り取らないで郵便局にお出しください。

海外ルーツの人びととの歩み

シナピス事務局 ビスカルド篤子

2023 年末から 2024 年春頃にかけて、シナピスに明るいニュースが入りました。長年関わってきた仮放免の青少年たちに在留特別許可がおりたのです。こどもへの在留許可を巡る問題は日本の司教団も広く社会に呼びかけて下さいました。長い暗闇を歩む思いでしたが、諦めなかったことが結果につながりました。在留資格を得た若者たちは、勉学に仕事に励む毎日を過ごしています。

ところで世界に目を向けると、迫害を逃れて国を出た難民の数はすでに 1 億 2 千万人を超えたと言われます。日本にも毎年 1 万数千人が流入しますが、シナピスにも新しく助けを求めてくる人が後を絶ちません。一人の難民申請者に関わるには、多くの人手が必要です。入管へ同行する人、守秘義務を守りつつ丁寧に経緯を聴き取る人、生活の世話をする人、そして差別や偏見から当事者を守る人が必要です。「難民は社会秩序を乱す」など、無知からくる偏見は容易に人を排除します。差別をなくす一歩は、生身の人間の置かれた現実を知ることです。

皆さん、素朴な疑問から一緒に学びませんか。場所・人数・お財布の心配はございませんので、どうぞ気軽にお声をかけてください。お待ちしております。



イスラエルの空爆によって亡くなった弟の亡骸を抱く少年 (Xより転載)

戦争といのち(正義と平和)

シナピス運営委員 嶋田 至

今年度、シナピスニュースレターの「年間テーマ」を「あきらめない 平和への道を とともに」として、各号の巻頭言にこのテーマに沿った文章を掲載してきました。全世界の教会で「すべてのいのちを守る」ことが求められている今、各地の戦争の早期終息を訴えるとともに、新たな戦争を回避するための平和学習と慰霊も大切です。

社会福音化部門では、シナピスニュースを通して、多くの民間人の犠牲が続くパレスチナやウクライナの状況をお伝えしてきました。国内外での学習会や支援活動を紹介したり、平和を祈る教皇のメッセージの紹介もしました。

アジア太平洋戦争をはじめとする戦争や暴力による被害の伝承のために、平和旬間での多様な取り組みを伝えたり、戦争体験者の話や、沖縄の「慰霊の日」に若い世代の人たちを派遣し、その報告をシナピスニュースなどでお伝えしました。戦争の記憶がどんどん薄れて、歴史が「修正」されていく危機のなか、戦争がもたらした犠牲を明らかにしていくことが、今後ますます大切になっていくことだろうと思います。

また、タリバンの支配下で苦しむアフガニスタンの人々への支援も続けてきました。5月には、国内のアフガニスタン人に物資の援助や職業訓練を行うイーグル・アフガン復興協会に、こども基金から支援をしました。こども基金は、ここ数年、活動を保留してきましたが、体制を整えて支援活動を再開したいと考えています。

今後の課題として

シナピス スタッフ一同

社会福音化部門では、この一年間さまざまな取り組みを続けるなかで、今後の課題も明らかになってきました。

ひとつは、大阪高松教区としての協力体制が、まだ道半ばであることです。旧高松教区との連携をさらに強め、教区全体で社会の福音化を促すことが求められます。

また、社会福音化の活動を担うネットワークの強化も必要です。各地区・各小教区の社会活動委員会間の連携を強めて、情報共有や相互補完しあえるような体制づくりが求められます。とくに社会活動センターであるシナピスは、国内外のさまざまな情報を集めるアンテナの

役割と、教区内での連携を強めて、教区全体での社会福音化を支える役割を担っています。あらためてこのような役割の強化も大切です。

そして、次の世代の人たちを育成することも焦眉の課題です。今、若い世代に向けて学習や新たな活動を支援する仕組みを構想していますが、これらの実現が急がれます。

最後に、靈性を養う場を設けることが大切です。常にみことばとともにあって、自分たちの取り組みを見直していくことが、社会福音化をさらに深めていくことにつながるのだと思います。

各地区の社会活動委員会の働き

シナピス事務局 山田 直保子

本年度はコロナ禍もあけて、定例会や学習会が数多く行われました。実際に顔を見て分かち合えることは、とても嬉しいという声を多く耳にしました。現実には起こっている様々な社会問題に対しては、誰かが確実に声を上げていかなければなりません。

分かち合い、共有・共感することによって、一人ひとりの力が大きな力になるのだと信じています。



「社会の福音化をめざすキリスト者の集い」での対話の様子

各地区で開催されたおもな学習会・講演会



- 2月 大阪梅田教会 「ウクライナとガザー戦場からの報告と提言」 講師：志葉玲さん
- 3月 岸和田地区「モザンビークの現状を知る」 講師：イポリト・ヴィダ神父
- 4月 姫路地区「戦後 79 年戦争体験をどう受け継いでいくか」 宮内陽子さん
- 5月 「社会の福音化をめざすキリスト者の集い」 講師：本田哲郎神父
- 6月 和泉教会「徳島フィールドワーク」 大阪南地区「外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト者集会について」 講師：安藤真一牧師
- 9月 六甲教会「看る時、看られる時」 講師：山内保憲神父
- 11月 阪神地区「パレスチナ、イスラエルの子どもの未来の平和を願って」 講師：西口信幸さん

*これ以外にも、各地区や小教区において、さまざまなテーマの学習会や講演会が開かれました。

↓ キ リ ト リ 線 (下記の破線で切り取ってご使用ください。) ↓

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意

この払込書は、機械で処理しますので、口座番号及び金額を記入する際は、枠内に丁寧に記入してください。

また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

(郵政事業庁)

この払込取扱票の裏面には、何も記載しないでください。

聞かせてください 神さまと出会った時のこと 〜エマオへの道で〜

第12回 崔周永神父
(八尾教会・教区本部事務局長)

3歳年上の兄が、去年突然亡くなった。一人でいるときに倒れ、すでに事切れた兄を最初に見つけたのが母だった。なんとむごい話か。しかし私は、神様に「なぜ」と決して聞かなかった。それはただの文句にすぎないからだ。悲しみを抱えながらも、ただ受け止める。洗礼を受けたから、毎週熱心に教会に通っているからといって、よいことが起きたり、問題が解決されるわけでもない。それにもかかわらず、なぜ私たちは「神様」と呼び続けているのか。

23歳で洗礼を受ける一年前まで、私は全くの無神論者だった。ある夜、彼女と電話で話をしていたとき、いつもよほどんだソウルの夜空一面に星が煌めき、ありえないことに、私の頭のとっ

ぺんまで降りて来たのだ。その不思議な光景を見て、「私は今、神様がいることを信じている。私は洗礼を受けました」と電話口の向こうの、カトリック信者だった彼女に伝えた。神なんて存在しないと自分に言い聞かせていた人間が、神様に向かって歩もうとする。まさに、神様から呼ばれたとさだった。

そんな私が、30歳の頃に召命の道を歩み出した。修道会に入り、修練を重ねていた最中に重い病気にかかり、修道会を出た。精神的にも非常に苦しく、生きることもつらかった。そんな人間が、神様と出会った。祈るなかで、生まれ変わったように力の限り生きていく。今ここに立っている。私には今、この恵みが必要なので、人間としてその切実さをはっきり意識して祈ら

神様と出会った私たちは、洗礼という答えて信仰が完成されるのではなく、一日一日信者の道を、真剣に祈りながら神様に向かって歩んでいく。キリスト信者である限り、良かれ悪しかれ、すべてのことを神様からいただいた恵みだと受け止める。私たちの祈りとは、自分の苦しみを、どうか受け入れることができようにと、自分が変わるために祈る。厳しい現実の中、その苦しみを通して見えてくる人々の苦しみを神様の前に置き、どこかで必死に祈っているひとのため祈るのだ。主の祈りを複数形で祈る意味がここにある。

そして、私たちの信仰は、それを口にして言葉で表現し、身体でもって神さまに伝えていく。神様はすでに、私達の望みを全て知っている。しかし、「私には今、この恵みが必要なので」と、人間としてその切実さをはっきり意識して祈ら

ねばならない。表現してなんぼというものが、真の信仰なのだ。神様に賭けた望み、その中身が本物であればあるほど、必ず答えが返ってくる。神様は、信じるものを決して裏切られることはないのだから、神を探して真剣に生きていけば、目的地である神様のもとに戻れるよう、私たちの魂に地図のようなものを埋め込んでおられる気がする。それが、霊性なのだ。それぞれ独特な、その人の個性のような霊性は、神の力によってのみ変えられていく。私は人間が劇的に変わることを身をもって体験した。皆さんにも、もっと喜びをもつて神様に近づいてもらいたくて力強く、もつと喜びをもつて神様に近づいてもらいたくて、できる限り一人で静かに過ごしたいと切に願っているようなこの私が、今、一生懸命語っている。その力の存在こそが神様なのだ。

サクラファミリアで偶数月に開催中

「カテキズムの学び」

第55回 結婚の秘跡(その2)

*クラスは右のQRコードから



七つの秘跡の最後、結婚の秘跡についての2回目の話でした。カトリック教会の教えは福音の真理ですから、世間一般の常識とは乖離している場合もあります。結婚の不可解性はその一つです。不可解であることが結婚の本来の形であるのは、いにしえから万国共通で伝統化されていたことから分かります。しかしながら、近代の自由主義、相対主義の影響で多くの国では離婚を法制化してきました。もちろん、夫婦の不可解性の根拠は、人間の忍耐力ではありません。

新郎新婦が互いに与え受け入れ合う同意は、神ご自身によって押印されたものです。…結婚のきずなは神によって結ばれたものであり、受洗者同士の完成の認証婚は決して解消できません。(1639-1640番)

もっとも深い理由は、神がご自分の契約に対して忠実であられること、キリストがご自分の教会に対して忠実であられるということにあります。(1647番)

離婚はないという一方で、教会は正当な理由があれば別居することを認めています。

種々さまざまな理由で、夫婦の同居が実際に不可能となることがあります。そのような場合には、教会は夫婦の別居を認めます。とはいえ、この夫婦は神の前には依然として夫と妻であり、別の人と結婚する自由はありません。(1649番)

クラスでの質疑応答では、

キリストは、夫婦がすでにこの世にありながら、互いの愛と家族生活との喜びの中で小羊の婚礼を前もって味わえるようにしていただきます。(1642番)

と言われている「小羊の婚礼」とは何か、という質問がありました。これは、聖書の一節を指しています。

わたしたちは喜び、大いに喜び、神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、花嫁は用意を整えた。……小羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ。(黙示録19:7-9)

花婿であるキリスト(小羊)が花嫁である教会に忠実であることを夫婦は体現しているのです。

(文 酒井俊弘補佐司教)

訃報

Sr マリアフィデス田口トシコ (大阪聖ヨゼフ宣教師女会)は、2024年10月14日、老衰のためニューライフガラシア(介護老人保健施設)で帰天。87歳。長野県出身。奉獻生活63年。



謝し、神から与えられた使命を従順に受けとめ、神の望みを果たして奉獻生活を全うし、天国に旅立つことができた。



初誓願宣立から52年に亘り、奄美、岸和田、東京豊島、大分和歌山で教諭、園長として幼いのちへの奉仕に邁進した。また、1991年から6年間は志願者養成のためにも奉仕した。最後の派遣先となった和歌山信愛では、21年間、「子どもたちに神様の愛を伝えたい」という熱意に燃えて最後まで幼児教育のため捧げ尽くした。晩年は体が思うように動かないもともと神様の愛を伝えたいと願いつつも、肺炎のため82年の生涯と59年の奉獻生活を終え、御父の御許に旅立った。



1961年初誓願。長年、幼児教育に携わり百合学院幼稚園、香里幼稚園、長崎道の尾百合幼稚園、武庫之荘みこころ幼稚園、大森聖マリア幼稚園の教諭。園長として40数年間奉仕した。ときによさしく、ときにきびしい話し方で園児、保護者、教職員に親しまれた。

晩年入所したホームで自らスタッフの手伝いをして、喜びのうちに過ごした。今年春ごろから徐々に体力が衰え、大聖テレジアのお祝いの日に安らかに天に召された。

Sr ヨハンナ梅木陽子(シヨフアイユの幼きイエズス修道会)は2024年10月15日、肺炎のため、堀口記念病院で帰天。82歳。香川県出身。奉獻生活75年。

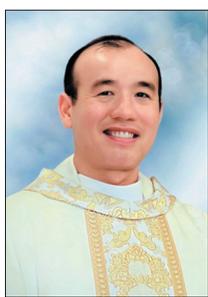


1949年9月初誓願後、戦後の荒廃した社会再建に向け、坂出聖マルチン病院創立当初から医療に従事、病院長、修道会の管理職を61年間奉仕した。病院のモットー「一人の人でも救われるために」と強い信仰と精神をもって、病人、職員、地域の人びとに福音を告げ知らせ、神への賛美と感謝の生涯を全うした。

大阪高松教区司祭

ヨゼフ チョン デイン ハイ

(TRUONG DINH HAI) 神父(46歳) 帰天



チョン デイン ハイ 神父は10月26日、悪性リンパ腫のため、国立大阪医療センターで、帰天。日本語の修得に忍耐強く

誠実に向き合われ、叙階後は外国語司牧に尽力し、日本とベトナム信徒との交わりを大切にされた。

1978年9月8日ベトナム生まれ。2009年来日。14年に司祭叙階。16年、玉造教会協力司祭。16年、20年、姫路西ブロックの共同宣教司牧。20年、24年、藤井寺教会の主任司祭を務めた。

大阪高松教区司祭郷文成神父の母、マリアファミリア・ティンドンさんは10月14日、帰天した。90歳

来しは



ヨハネ 1・46

※詳細は各主催者へ直接お問い合わせください。

教区委員会主催

信仰養成連続講座◆カテキズムの学び

当面休止

主催 使徒職養成委員会
問 ☎06-6941-9700

2024年度諸宗教対話活動 ◆第1回 訪問「仏教との対話：真言宗」

日時 12/14(土)14:00~16:00
場所 真言宗御室派法園寺/兵庫 県尼崎市猪名寺1-31-45
お話 松田 常史 住職
主催 諸宗教対話委員会
問 ☎06-6941-9700
✉ird-ecm@ostk.catholic.jp

サクラファミリア主催

聞かせてください 神さまと出会った時のこと~エマオへの道で~◆大阪高松教区で働く司祭・修道者ご自身の体験をきく

日時 12/3(火)18:00~19:30 (夜の部)・12/4(水)10:30~12:00(昼の部)
お話 酒井淳神父 (平野・大阪田辺教会)

コレーン神父と学ぶ聖書◆「主日のみ言葉に生かされる」日曜日の聖書と典礼の福音書をテーマにして、共に学び、分かち合う

日時 12/9(月)13:30~15:00 (9~12月開講)

和田幹男神父◆聖書研究講座『主のしもべ イエス』

日時 12/4(水)10:30~12:00

和田幹男神父◆新約聖書ギリシア語(初級)

日時 12/9(月)・12/16(月)17:00~18:30

問 サクラファミリア ☎06-6225-8871
✉f.sacra@ostk.catholic.jp

結婚準備講座

夙川教会
日時 2025年2/1(土)~2/22(土)16:30~18:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎0798-22-1649

六甲教会
日時 2025年2/2(日)~2/23(日)4回 14:00~16:00
参加費 ¥5,000(2名)
問 ☎078-851-2846
✉renraku@rokko-catholic.jp
※事前要問合せ(年2回)

黙想会

宝塚黙想の家
◆日帰り黙想会

日時 12/19(木)・12/20(金)10:00~15:30
指導 梁野治雄神父(12/19) 山内十束神父(12/20)
参加費 ¥3,500

◆カトリック教会のカテキズム
日時 第1・3(水)10:00~12:00
指導 梁野治雄神父
参加費 ¥1,000

◆祈りを深めるための聖書の基本
日時 第1・3(水)10:00~12:00
指導 山内十束神父
参加費 ¥1,000

◆新約聖書の世界への旅
日時 第1(月)19:00~
指導 山内十束神父

問 宝塚黙想の家 ☎0797-84-3111

女子御受難修道会◆友の会
日時 12/12(木)10:00~16:00
場所 女子御受難修道会
指導 ヨハネ・レンゴ神父 (レデンプトル会)

申込 1週間前締め切り
問 女子御受難会 Sr松井 ☎0797-84-7863
☎0797-84-7864

講座・研修会

講座 本田哲郎神父◆小さくされた人々のための福音
日時 第3(金)10:00
場所 神戸学生青年センター
参加費 ¥1,000
主催 神戸国際支縁機構
問 岩村 ☎070-5045-7127

集い

社会活動神戸センター◆野宿者支援クリスマスチャリティコンサート2024

日時 12/7(土)13:00~16:00
場所 神戸中央教会
入場料 無料・会場献金あり
主催 神戸地区社会活動委員会
問 ☎078-221-4733
✉sinapiskobe@yahoo.co.jp

大阪JOC◆働き方や生き方について現状から共に考える15~35歳までの若者の集い

日時 第4(土)14:00~16:00
場所 大阪YCWセンター (またはZoom)
問 レネ神父・水元 ☎072-232-8063
✉osakaycw@gmail.com
HP http://www.ycw.jp/

要約筆記グループ“エフファタ!”練習会◆教区ミサに要約筆記(文字表示)をつけるボランティア

日時 第2(水)10:00~12:00
場所 教区本部事務局 1階会議室
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

精神・発達症(障害)者自助グループ◆オリーブの集い

守秘義務と分かち合い
いつ来てもウェルカム
当日キャンセルOK
日時 第3(日)14:00~16:00
場所 姫里集会所
参加費 無料(12月のクリスマス会だけ実費)

申込 吉川まで
問 ☎078-583-2525
✉yassan.yoshikawa@nifty.com

カ障連大阪フレンドリー ◆点字部の勉強会

対象 パソコン点訳に関心のある方、視覚障がい者の情報共有に関心のある方

日時 第2(火)13:30~15:00
場所 姫里集会所(奇数月) 北須磨教会(偶数月)

申込 笠松まで
問 ☎090-5661-4324
☎072-722-0271
✉kasamatsu-yukisan@iris.eonet.ne.jp

聴覚障がい者ボランティア会◆聖書の手話表現の学び・教区活動の手話通訳者派遣

対象 手話に興味をお持ちの方※手話講習会ではありません

日時 第1・3・5(水)10:00~14:00

場所 姫里集会所
問 障がい者委員会
✉dis@ostk.catholic.jp

マザー・テレサ共労者の集い ◆大阪梅田教会

日時 第1(土)14:00
問 高塚 ☎06-6921-0693

◆加古川教会

日時 第3(火)13:00~14:30
問 森田 ☎079-426-5704

平和旬間報告 2024

◆武庫之荘教会

8/4(日) 信徒による折鶴の奉納。トマス・ティアゴ神父作成の故郷モザンビークを題材にしたミニシアター上映会と分かち合いのお茶会を開催。モザンビークでは、過激派グループから逃げたいが、逃げる方法が無く取り残されている市民が大量に、家を失い、飢餓、誘拐、惨殺されている。そんな中でも神父はイスラム教徒を非難せず、すべてが一つとなって平和が実現することを祈り、カトリックの司教とイスラム教徒のリーダーが集う場に同席し、平和への思いを語られているシーンが写し出されていた。私たちが平和と国、民族、肌の違いはあっても一人一人の尊厳がいかに大切かを学んだ。



◆八幡浜教会

8/15(木) ベトナム技能実習生を中心に、日本とベトナムの国を超えて平和を祈る集いを行った。同日に行われた平和を祈る八幡浜市花火大会を観覧しながら、市民とも交わる集いに参加した。日本の終戦記念日を中心とする盂蘭盆会の慣例を知らないベトナムの聖母会の方によって、カトリック教会の聖母被昇天に関連して平和旬間を理解してもらうことはとても意義深かった。



*10月号平和旬間報告に追加

行事等日程	
12月	
1日	宣教地召命促進の日(献金)
5日	[常任司教委員会]
9日	無原罪の聖マリア
11日	10時 顧問会・責任役員会 教皇訪日5周年記念ミサ(東京)
12日	木 [臨時司教総会]
25日	水 主の降誕(教区本部事務局休業)
26日	木 11時 みことばの祭儀 聖ヨハネ使徒福音記者
27日	金 使徒ヨハネ訪法栄治郎名誉司教霊名
28日	土 (教区本部事務局年末年始休業 2024.12/28~2025.1/5)
29日	日 聖家族
2025年 1月	
1日	水 神の母聖マリア 世界平和の日
5日	日 主の公現
6日	月 (教区本部事務局2025年始業)
9日	木 [常任司教委員会]

「甲子園教会」タカログ語 平日のミサ
▽9時~9時30分
▽毎月第三日曜日:14時
▽火水木土曜日:7時
▽金曜日:9時

案内・報告 主日ミサ時間変更

12月司教予定

- 12/1 伊丹教会創立75周年(†S)
 - 12/6~10 枢機卿会議(ローマ)(†M)
 - 12/8 堺教会堅信式(†S)
 - 12/15 垂水教会堅信式(†S)
 - 12/21 菊地枢機卿親任祝賀ミサ(†M)(†S)
 - 12/22 関目教会黙想会(†S)
 - 12/24 聖夜ミサ(†M)玉造教会/(†S)桜町教会
 - 12/25 日中ミサ(†M)玉造教会/(†S)番町教会
 - 12/29 聖年開幕ミサ(†M)玉造教会/(†S)桜町教会
- †M=前田万葉大司教
†S=酒井俊弘補佐司教

はばたき

身近なプロテスタント幼稚園で、卒園児が教育実習に訪れた。自分の育った幼稚園で温かく育てられたことを実感し、都会の大学生活に戻った。また、故郷長崎のカトリック幼稚園が数年前に閉園した。恩師のシスターは新任教員で開園に臨み、後期高齢の年、園長として閉園を判断した。生涯を卒園児の人生に心をとめ、その家庭生活を見守り、早すぎる死にも遭遇したと語る。

幼児教育は人格の基礎を育み、人生の基盤を安定させる。カトリック教会はそこに注力した時代から、多様性の少年高齡教会でどのような社会との関係を築くか、我々に求められている宣教のかたちである。

愛媛地区 清水裕子

大阪のカトリック病院
ガラシア病院

特徴的な医療
ホスピス・糖尿病内科
リハビリ・神経内科
肝臓内科・循環器内科

医療法人ガラシア会
理事長 前田万葉 大司教
チャプレン 松本信愛 神父

看護師 募集中

〒562-8567
箕面市粟生間谷西 6-14-1
☎072-729-2345

医療法人ガラシア会

ひとりで悩まないで
~私たちに聴かせてください~

カトリック大阪高松大司教区
ハラスメント相談窓口

※委員会はハラスメント全般を視野に入れることになりました。そのため、名称変更します。

電話番号:06-6941-9718

相談窓口受付時間
月・火・金曜日(祝日を除く)
午前10時~午後4時

あなたの悩みを親身になって受け止めます。
秘密は必ず守られます。